

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| ① 国語A | 82人 | 国語B | 82人 |
| ② 数学A | 82人 | 数学B | 82人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

II 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・国語 A(知識)の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答数の分布状況は全国と比べ31問正答(正答率約93%)の割合が高い。
- ・国語 B(活用)の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答数の分布状況は全国と比べ6問~8問正答(正答率約67%~89%)の割合が高い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	80.2	79.2	77.6
	書くこと	4	75.9	67.1	64.5
	読むこと	6	86.5	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	80.4	78.2	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	80.2	79.2	77.6
	書く能力	4	75.9	67.1	64.5
	読む能力	6	85.6	82.3	80.0
	言語についての知識・理解・技能	18	80.4	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	81.3	79.2	77.3
	短答式	11	79.7	74.9	74.7
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	67.9	63.3	62.7
	読むこと	8	74.5	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	67.1	63.0	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	67.9	63.3	62.7
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	67.9	63.3	62.7
	読む能力	8	74.5	69.9	67.8
	言語についての知識・理解・技能	1	67.1	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	72.9	70.4	68.2
	短答式	1	95.1	80.9	77.5
	記述式	3	67.9	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は80.2%で、全国平均より2.6ポイント高い。
⇒○ 特に、話合いの方向を捉えた司会の発言としての適切なものを選択する設問の正答率は、61.0%で、全国平均より6.3ポイント高い。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率は75.9%で、全国平均より11.4ポイント高い。
⇒○ 特に、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書く設問の正答率は65.9%で、全国平均より17.1ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は67.9%で、全国平均より5.2ポイント高い。
⇒● ただし、「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く設問の正答率は54.9%で、全国平均より3.0ポイント低い。課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率は86.5%で、全国平均より6.5ポイント高い。
⇒○ 特に、文章の展開に即して内容を捉える設問の正答率は86.6%で、全国平均より11.0ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は74.5%で、全国平均より6.7ポイント高い。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- A 事項の平均正答率は80.4%で、全国平均より2.9ポイント高い。
⇒● ただし、修飾・被修飾の関係にあるものを選択する設問の正答率は68.3%で、全国平均より5.1ポイント低い。修飾語と被修飾語の照応について理解することに課題がある。
- B 事項の平均正答率は67.1%で、全国平均より2.5ポイント高い。

【その他】

- B 問題形式別に見ると、選択式、短答式、記述式ともに、全国平均より高く、特に短答式の正答率は95.1%で、17.6ポイント高い。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 「国語の授業は大切だと思う」と回答している生徒の割合は92.7%で、全国平均と比べて4.3ポイント高い。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答している生徒の割合は69.5%で、全国平均と比べて17.3ポイント高い。
- 「読書が好き」と回答している生徒の割合は68.2%だが、全国平均と比べると1.9ポイント低い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- スピーチの指導では、目的や意図に応じ、自分の立場や結論を明確にした上で全体の構成や表現の工夫を考えさせるとともに、事実と感想、意見とを区別しながら説明したり報告したりする学習活動を計画的に行う。
- 話す・聞く能力を育むために、日常の場面においても共通のテーマを課題とし、話し手や聞き手の立場を明らかにした上で、生徒が自らの思いや意見を伝え合う機会を多く設定する。

【書くこと】

- 目的に応じて情報の取り上げ方や書き方を工夫して書く指導の工夫をする。目的や相手に応じて取り上げる情報、それを示す順番などの観点で書いた文章を読み返し、よりよい文章にするように指導をする。
- 自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなど、具体的に書くように指導する。

【読むこと】

- 課題を解決する力を身に付けるために、具体的な言語活動を設定し、明確な目的をもって文章を読み、自分の課題の解決に適した手段を選ぶように指導する。そのためには、調べる手段の特徴を理解し、見通しをもって情報を集め、自分が設定した課題に応じて収集した情報を整理する学習を計画する。
- 読解能力を育むために、登場人物や作品の構造、表現や叙述に即した読みの指導や、作者や同じ題材の作品を比べて読む読書を取り入れた指導など、効果的な読み方の理解や読書活動の充実を図る。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 漢字を正確に読み書きできるようにするために、読み仮名を正しく表記して発音させるとともに、点画の間違えやすい部分に注意して正確に書くように指導する。
- 言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書等を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設ける必要がある。その上で、調べたことを「話すこと・聞くこと」や「書くこと」なども学習に生かしていくよう指導する。

2 数学

全体的な傾向

- 数学 A(知識)の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答数の分布状況は全国と比べ 30 問～31 問正答(正答率約 83%～86%)の割合が高い。
- 数学 B(活用)の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答数の分布状況は全国と比べ 6 問(正答率約 38%)、および 8 問～11 問の(正答率約 50%～69%)の割合が高い。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	74.4	73.5	72.7
	図形	12	69.6	66.4	64.6
	関数	9	66.0	60.0	58.7
	資料の活用	4	48.5	48.3	46.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	72.2	68.7	67.9
	数量や図形などについての 知識・理解	19	63.9	61.6	59.8
問題形式	選択式	18	66.6	63.6	61.8
	短答式	18	69.0	66.3	65.5
	記述式	0			

【数学B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	49.8	43.0	41.7
	図形	2	49.4	45.1	44.8
	関数	6	45.7	40.1	40.0
	資料の活用	3	52.8	43.8	42.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	40.1	35.0	34.8
	数学的な技能	2	66.5	55.7	53.1
	数量や図形などについての 知識・理解	2	82.9	72.8	70.7
問題形式	選択式	4	43.0	43.2	43.3
	短答式	5	67.8	57.8	55.8
	記述式	7	38.5	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区別の傾向と課題

【数と式】

- A 領域の平均正答率は 74.4%で、全国平均より 1.7 ポイント高い。
 ⇒● ただし、() を含む正の数と負の数の計算の平均正答率は、81.7%で全国平均より 5.8 ポイント低い。基本的な計算の確実な定着に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 49.8%で、全国平均より 8.1 ポイント高い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は 69.6%で、全国平均より 5.0 ポイント高い。
 ⇒○ 特に、角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ設問の正答率は全国平均より 14.5 ポイント高い。
 ⇒● ただし、 $\triangle ABC$ を点Cを回転の中心として時計回りに回転移動して $\triangle DEC$ にぴったり重ねたとき回転角の大きさを求める設問の正答率は 53.7%で、全国平均より 2.3 ポイント低い。回転移動の意味の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 49.4%で、全国平均より 4.6 ポイント高い。

【関数】

- A 領域の平均正答率は 66.0%で、全国平均より 7.3 ポイント高い。
 ⇒○ 特に、一次関数の表から変化の割合を求める設問の正答率は全国平均より 21.0 ポイント高い。
 ⇒● ただし、 y が x の関数である事象を選ぶ設問の正答率は 15.9%で、数学の設問の中で最も低い。関数の意味の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 45.7%で、全国平均より 5.7 ポイント高い。

【資料の活用】

- A 領域の平均正答率は 48.5%で、全国平均より 1.7 ポイント高い。
 ⇒● ただし、1枚の硬貨を多数投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ設問の正答率は 23.2%で領域の中で最も低く、全国平均より 9.9 ポイント低い。確率の意味の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 52.8%で、全国平均より 10.6 ポイント高い。

【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率は 38.5%で、選択式に比べて 4.5 ポイント、短答式に比べて 29.3 ポイント低い。自分の考えを説明することに課題がある。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 数学に関する 1 つを除く質問において、肯定的な回答の割合は全国平均と比べて高い。
- 「数学の授業で学習したことは将来社会に出たとき役に立つと思う」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて特に高い。
- 「数学の授業で問題を解くときもっと簡単に解く方法がないか考える」と回答と回答している生徒の割合は 64.6%で、全国平均と比べて 2.3 ポイント低い。

指導改善のポイント

【数と式】

- ・ 正の数と負の数の必要性和意味を理解できるようにするために、実生活の様々な場面における数量やその変化を、正の数と負の数を用いて表す活動を一層重視する。
- ・ 文字のもつ意味を理解できるようにするために、文字式の意味を事象に即して読み取ったり、文字に数を代入して式の値を確かめたりする活動の充実を図る。

【図形】

- ・ 証明の方針を立てるために、結論を導くためには何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見出したりする活動を充実させる。

【関数】

- ・ 関数の意味を理解し、関数関係を見いだす活動を重視する。様々な事象の中の 2 つの数量 x 、 y について、 y が x の関数であるかどうかを見いだすために、具体的な数を x に当てはめて、 y が一意に決まるかどうかを確かめる活動を重視する。
- ・ 関数を利用して日常生活の事象を考察したり問題を解決したりできるよう、「グラフに表わして交点の座標を読む」、「式に表して一方の値を代入する」、「表に表して変化の割合を求める」など、「用いるもの」と「用い方」を考え、その両方を指摘しながら問題解決の方法を説明する活動を取り入れるようにする。

【資料の活用】

- ・ 資料の傾向を的確に捉え、読み取った資料の傾向を基に、事柄の特徴を数学的に説明することができるようにする。目的に応じて資料を分類整理し、資料の傾向を読み取り、整理の仕方を工夫することで資料の傾向を捉え直したりする活動を充実させる。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

【家庭学習】

- 「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で宿題をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で復習をしている」の4つの質問に対する肯定的回答は、全国平均と比べてすべて高くなっている。
- 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強をすると回答している生徒の割合は、全国平均より低い。

	主な質問と回答内容	本校	全国平均との差
1	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	57.4	12.9
2	家で学校の宿題をしていますか	91.4	4.6
3	家で学校の授業の予習をしていますか	52.4	18.9
4	家で学校の授業の復習をしていますか	58.5	9.9
5	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強をしている	64.9	△3.7

【社会に対する興味・関心】

- 社会に対する興味・関心に関する4つの質問に対する肯定的回答は、全国平均と比べてすべて高くなっている。

	主な質問と回答内容	本校	全国平均との差
1	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	59.8	8.0
2	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	37.8	11.0
3	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	52.4	7.4
4	週1回以上新聞を読んでいますか	32.5	7.2

【地域との関わり】

- 「今住んでいる地域の行事に参加していると回答している生徒の割合は、70.7%で、全国平均より29.1ポイント高い。

【生活習慣】

- 「朝食を毎日食べているか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対する肯定的回答は、いずれも全国平均より高い。特に「朝食を毎日食べている」についての肯定的回答は97.6%で、全国平均より3.8ポイント高い。
- 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上テレビゲームをすると回答している生徒の割合は、50.1%で、全国平均より2.1ポイント高い。

【家庭でのコミュニケーション】

- 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は68.6%で、全国平均より2.9ポイント高い。

【規範意識】

- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は96.4%で、全国平均より2.9ポイント高い。